

Microsoftに対するCISPE苦情の要約

不当で差別的なバンドリング、抱き合わせ、自己優遇的な価格設定、技術的および経済的ロックインなどの反競争的慣行は、ヨーロッパ企業がクラウドに移行する際の選択肢を制限するため、主要なソフトウェア企業によって引き続き使用されています。

特に、Microsoftは生産性ソフトウェアにおける優位性を利用して、ヨーロッパの顧客を自社のAzureクラウドインフラストラクチャに誘導し、ヨーロッパのクラウド・インフラストラクチャ・プロバイダやITサービスのユーザーに損害を与えています。

Microsoftライセンスに2022年10月1日に加えられた最近の変更は、この状況を変化させるものではありません。実際、これらの変化は、こうした問題をさらに悪化させ、新しい形の抱き合わせ、ロックイン、顧客の選択肢削減をもたらすと考えています。

ヨーロッパのクラウド・インフラストラクチャ・プロバイダの市場シェアは、市場全体の成長にもかかわらず、過去5年間で半分になっています。同市場でのMicrosoftのシェアは、安定した市場シェアを維持している他のすべての企業を上回っており、我々の意見ではヨーロッパのプロバイダを犠牲にして、800%以上も成長しています

このような不正行為が継続した場合、ヨーロッパのクラウド・インフラストラクチャ・セクターは必然的に消滅することになります。ヨーロッパの企業や公共部門の組織は、ITサービスプロバイダを自ら選択してクラウドサービスを構築、運用、サポートするオプションを永久的かつ不可逆的に失うことになります。

クラウドは、経済成長やデジタル経済、欧州連合とその市民が望むその他の政治的、社会的、経済的恩恵のための基盤となります。ヨーロッパのクラウド・インフラストラクチャ・プロバイダの成長は、欧州の技術革新と卓越性を促進し、クラウドにおける戦略的自律性を確保するうえで不可欠な要素です。彼らは、ヨーロッパの価値観をサポートするために設計され、欧州市民の保護を大事にするクラウドインフラストラクチャを提供します。

クラウドインフラストラクチャに関する公正かつ堅牢な競争を回復するために今すぐ行動しないと、一部のプロバイダが市場から排除され、顧客に重大な損害が生じ、メリットに従ってITプロバイダを選択できなくなってしまう。

欧州クラウド・インフラストラクチャ・サービス・プロバイダ (CISPE) は、欧州連合 (EU) に本社や事業を持つ24のクラウド・インフラストラクチャ・プロバイダの利益を代表しています。多くのメンバーは、欧州中の公共および民間部門の顧客に、特別にカスタマイズされたクラウドサービスを提供する中小企業です。

クラウド・インフラストラクチャ・プロバイダは、ITサービスの基盤を構築しますが、事実上すべての顧客は、そのインフラストラクチャ上でソフトウェアを実行できる能力を求めています。このソフトウェアのライセンス供与を公平にして選択肢を確保し、ロックインを回避することは、ヨーロッパで競争力のある活気的なITサービス市場を実現するために不可欠です。

CISPEは、適正なソフトウェアライセンス供与の原則をクラウドに導入することで、この主要セクターでの競争を迅速に回復できると考えています。ヨーロッパの顧客がクラウドで実行したい不可欠なソフトウェアのライセンス供与に関するベストプラクティスを推進することで、Microsoftの反競争的行動と、他のサプライヤーがレガシーソフトウェア市場の優位性を活用して隣接セクターの市場支配力を不当に高める可能性の両方に関する懸念に対処できます。

OVHcloudとArubaという2つの加盟組織はすでに、ソフトウェアライセンス供与に関する条項の乱用により、Microsoftが自社のクラウドインフラストラクチャを不当優遇しているとの異議申し立てを行っています。CISPEメンバーの大半は、同様の不公平な慣行に直面しています。本苦情では、その苦情についての詳細は割愛します。その代わりに、自らの苦情を報告するためのリソースを持たないメンバーや、報復への懸念が大きすぎて単独で立ち上がれないメンバーのために声を上げることを目的としています。

ただし、このCISPE苦情では、Microsoftの不公平なライセンス供与慣行が、いかにTFEU第102条に違反して乱用に当たるかを証明するための法的議論や先例を詳述し、欧州委員会が正式な調査を開始するための正当な法的根拠を提供しています。

この問題に対する明確な行動の根拠として、不可欠性と不公平性の両方について詳細な法的分析を行っています。

より重要なことに、この苦情の目的は、状況を解決するための潜在的なアプローチとツールを概説し、コミットメントプロセスを通じて、または、自主的な早期解決がない場合、違反決定の一部を形成する指示として、迅速かつ持続的に状況を改善する、公正で簡単に導入可能なソリューションを作成することです。

CISPEはクラウドインフラストラクチャ分野のベンダー団体ですが、この苦情は、ここ数年、ヨーロッパ全体の顧客と密接に協力して開発された成果物とツールを利用および推進し、業界全体を代表するものです。顧客の代表的な集団と緊密に連携して、本苦情で救済策として提案した考え方とツールを開発しました。

そのため、この苦情で説明したアプローチに基づいて提案された救済策は、クラウド業界全体の顧客やベンダーから広範なサポートをすぐに受けられると予想しています。

フランスのデジタルリーダーによる協会、CigrefとCISPEが2021年4月に共同で開発・立ち上げた「公平なソフトウェアライセンス供与のための10原則」が、IT部門での競争回復の基礎となると考えています。その立ち上げ後、イタリア、ドイツ、オランダ、スペイン、デンマーク、英国、最近ではイスラエルなど、ヨーロッパ各地の顧客組織がこの原則を推進および支持しています。適切に実装、順守、モニタリングされていれば、この10原則は初期の苦情で主張されている不公平な慣行に対処するものとなります。

これを推進するため、顧客やプロバイダ組織と再度緊密に連携し、「公平なソフトウェアライセンス供与のための10原則」への準拠について、任意のソフトウェアライセンス条項に対する独立した公平な監査を容易にする管理枠組みを考案しました。

欧州委員会または同委員会が選択した独立サードパーティは、この管理枠組みを使用して、ソフトウェアプロバイダのライセンス条項を効果的に監査し、それらの契約がIT部門の公正な競争を支持しているか、または弊害をもたらしているかを迅速に確認することができます。

この監査可能な管理枠組みを使用して、訴訟の被告が提案した救済策、または欧州委員会が違反決定の一環として課した指示の適合性を評価することができます。

CISPEは、この苦情の一部として、同管理枠組みを使用して、最近（8月29日）のブログ投稿で、Microsoftが提案したライセンス条項の変更点と、10月1日の新しいライセンス導入で認識できる新しい条項を評価しています。これは、同管理枠組みの適用例であり、実践での使用を示しています。特に、Microsoft提案のどこがどのようにして、最初の苦情の中で原告が概説した消費者やプロバイダの被害に対処していないのかを強調しています。

この管理枠組みを使用して有効化された「公平なソフトウェアライセンス供与のための10原則」は、すぐに導入できる救済策であるだけでなく、継続的な市場ベースのソリューションの基盤を形成できると考えています。

同原則に対するソフトウェアライセンス供与条項の遵守をモニタリングする能力を備えた、「欧州監査所」の設立を提唱します。この独立機関によるソフトウェア条項の定期的な監査により、ベンダーが顧客に新たな不公平な慣行を一方向的に課することができないようにします。

これらの原則に照らし、ソフトウェアライセンス供与条項を定期的に監査することで、欧州の顧客に対し、条項が公正な選択、オープンな競争、活気ある市場を引き続き支持するという信頼感を与えることができます。ベンダーが標準料金および比例料金を支払い、これら監査および同監査所運用の費用を負担します。

ヨーロッパの「デジタルの10年」におけるクラウドインフラストラクチャ業界の重要性、その成長と回復プログラムおよびテクノロジー市場における戦略的自律性、そして主要ソフトウェアベンダーが同市場での競争を阻害する明確な可能性を考慮の上、CISPEはさらに、欧州委員会がデジタル市場法（DMA）を更新し、ゲートキーパーが核心サービスプラットフォームを活用して競合他社と差別化し、自社のソフトウェアアプリケーションを自己優遇することを禁止することを提案します。特に、生産性ソフトウェアを持つMicrosoftなど、特定の市場で支配的な地位を占めている場合にはなおさらです。

そのため、CISPEは、ソフトウェアゲートキーパーによる不正なソフトウェア慣行および関連する自己優遇を禁止する欧州委員会委任法令の形で、第12条に基づき、DMAを更新することを求めます

この苦情はCISPE取締役会によって承認され、メンバー全員が支持しており、メンバーを脅かす反競争的な状況を迅速に発見し、救済策を実施することを目的としています。

CISPEメンバーは、ヨーロッパのイノベーターや技術革新者であるだけでなく、活気あるヨーロッパのクラウドとデジタル経済のための基盤を提供しています。他のプレーヤー同士の戦いで利用されている人質でもなければ、一斉攻撃に遭った不運な犠牲者でもありません。彼らをそのように呼ぶのは傲慢であり、負傷に侮辱を加えることとなります。

彼らは、ヨーロッパ中の数千の企業および公共部門の顧客に、特別かつ重要で差別化されたサービスを提供するヨーロッパ企業です。その顧客は、クラウドベースの製品とサービスを数百万人の欧州市民に提供しています。これらのプレーヤーを失うことは、顧客の選択肢を排除するだけでなく、価格の上昇、革新性の低下、サービス品質の低下などにつながります。

より重要なことに、強力で革新的なヨーロッパのクラウド・インフラストラクチャ・ベンダーがいなければ、戦略的自律とデータ主権という目標の実現はより困難になります。ヨーロッパの顧客は、自分のアプローチと価値観に合っているプロバイダを選択できなくなってしまいます。

CISPEは、欧州のクラウドインフラストラクチャ業界全体を代表して、欧州委員会に対し、Microsoftの不公平なソフトウェアライセンス供与慣行について正式な調査を開始し、クラウドにおける「公平なソフトウェアライセンス供与のための10原則」とその監査可能な管理枠組みを救済策のベースとして検討するよう謙虚に求めます